

## 鼻アレルギーの診断と治療

鼻アレルギーまたはアレルギー性鼻炎はハウスダストや家ダニ、花粉などの吸入抗原(異物)が、鼻粘膜に接触し、抗原抗体反応を起こすことにより発症します。抗原抗体反応により疫を免れることを免疫というのに対し、アレルギーは抗原抗体反応が生体に病的な影響を及ぼすことをいいます。また、アレルギーを起こしやすい体質を一般的にアレルギー体質といい、その体質を遺伝的に受け継いだ人はかかりやすい傾向にあります。

### 【症状】

鼻アレルギーの主な症状は再発性のくしゃみ発作、水様性鼻漏(鼻みず)、鼻閉(鼻づまり)です。同じ特型アレルギーに属し気道アレルギーである気管支喘息の咳、痰、呼吸困難という症状とは生体の防御反応という観点から考えると非常に良く類似していて対比させることができます。また、両者は合併する事が多く、しばしばアトピー性皮膚炎などの皮膚症状が先行し、小児喘息に続くかほぼ同時に鼻アレルギーを発症します。このように、乳児期から成長につれてアレルギー疾患が次々に発症する現象のことをアレルギーマーチと呼んでいます。

### 【原因】

ハウスダストやダニ、花粉といった原因抗原が明らかな場合、アレルギー性鼻炎と診断しますが、原因が不明で同様な症状を訴える場合、血管運動性鼻炎などと診断します。これらはともに過敏性が亢進している状態なので鼻過敏症とも呼ばれます。これに対して、風邪の初期には鼻アレルギーとよく似た症状を呈することが多く、急性鼻炎(鼻かぜ)と呼んでいます。細菌やウイルスによる感染性疾患であり、数日のうちに粘膿性の鼻漏に変化して治癒します。

### 【診断】

鼻アレルギーの診断は症状や好発時期、生活環境などの問診と鼻粘膜が蒼白になり、水性鼻汁が見られるなどの鼻鏡所見で典型的な場合には診断がつきます。検査としては、鼻汁中の好酸球増多の確認と原因抗原検索の方法としての抗原抽出液を用いた皮内反応、血清特異的 IgE 抗体測定検査、抗原による鼻粘膜誘発試験などで確定診断がつきます。ハウスダストやダニが原因抗原の場合にはほぼ一年中症状が続くため通年性鼻アレルギーといい、スギ花粉などの場合には季節性鼻アレルギーまたは花粉症とも呼ばれます。ちなみに、北海道では4月から5月にかけてはシラカバ、6月から8月まではカモガヤ、9月にはヨモギによる花粉症が多くみられます。

### 【治療】

治療としては抗アレルギー剤、抗ヒスタミン剤、局所ステロイド噴霧薬などの対症療法や抗原抽出希釈液による減感作療法と最近のトピックスになっているレーザー手術などの手術療法もあります。花粉症に関しては、北海道では比較的軽症で短期間であることが多いため、花粉飛散時期の約二週間前からの抗アレルギー剤の季節前投与のみで症状をほぼコントロールすることが可能です。ハウスダストなどの通年性アレルギーに関しては、最近再び注目されてきている減感作療法と対症療法を組み合わせ、鼻閉が強い場合にはレーザー手術を加えるのがよいと思われます。